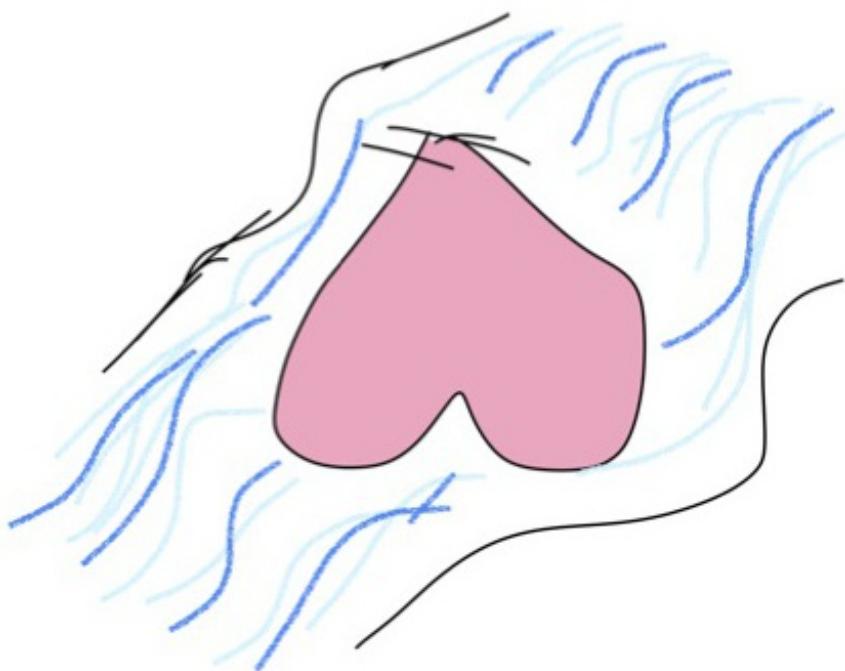
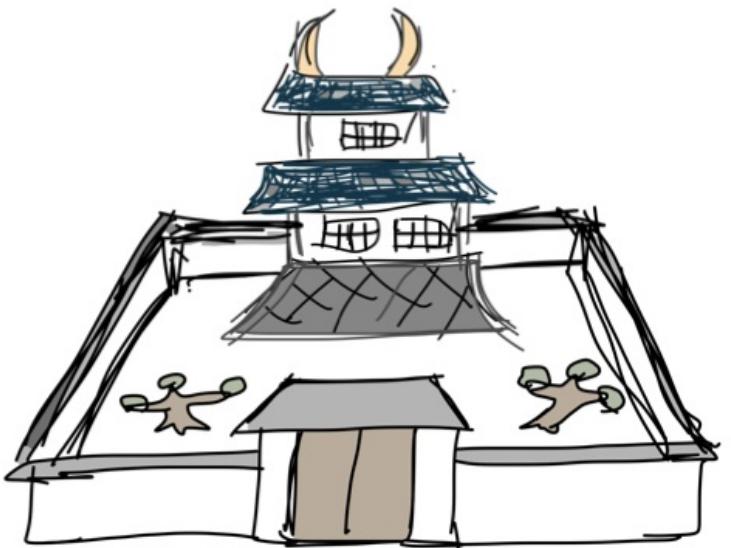


# ももじろう



どくたえい

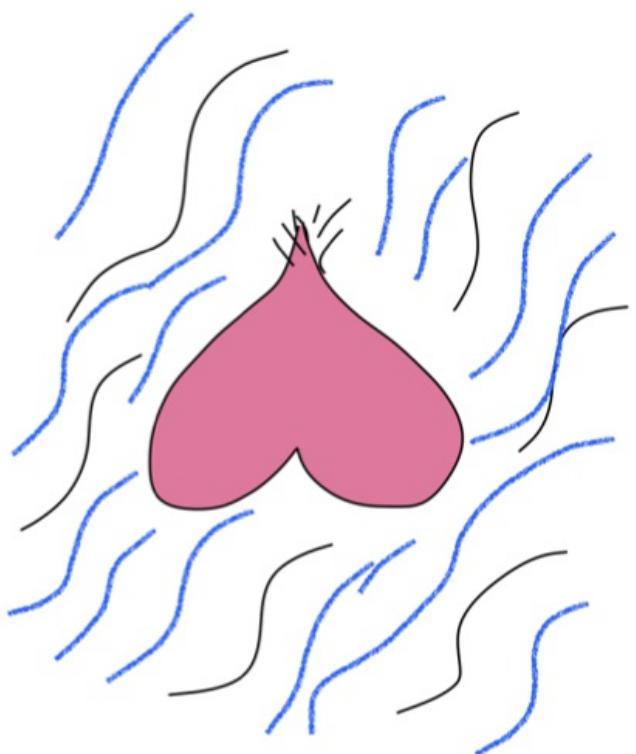
むかしむかし  
あるところに  
おかねもちの  
おばあさんと  
おじいさんが  
すんでいました。



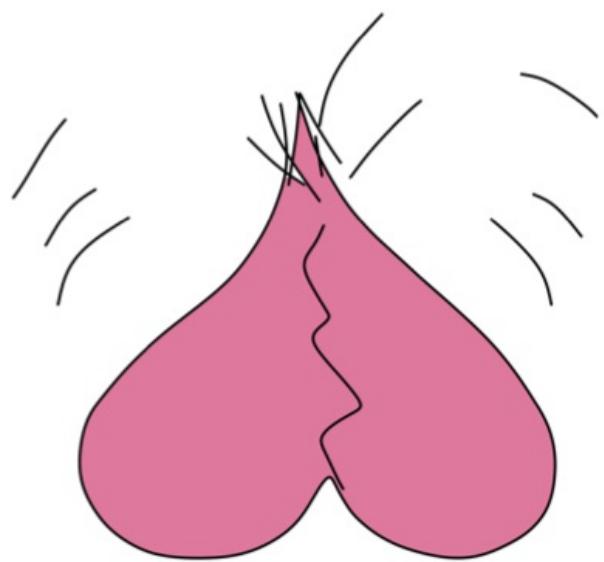
あるひ、  
おばあさんは  
やかたぶねで  
えんかいに、  
おじいさんは  
たかがりに  
いきました。



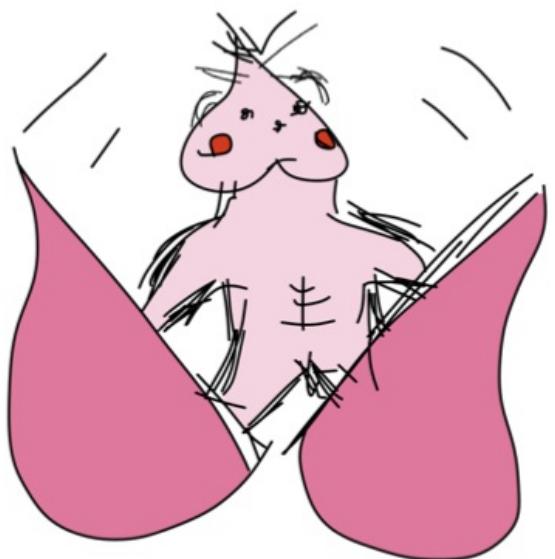
おばあさんが  
かわで えんかいを  
していると、  
おおきな ももが  
どんぶらこと  
ながれてきました。  
おやおや、ひさしぶりに  
おおきな ももを みたよ。  
ひろって おじいさんに  
みせましょう。  
おばあさんは  
いいました。



やがて おじいさんが  
たかがりから  
かえって きました。  
おじいさん、  
また おおきな ももを  
ひろいましたよ。  
おばあさんは  
いいました。  
また あかちゃんが  
いるのかなあ。  
おじいさんは  
こたえました。



やっぱり  
あかちゃんが  
でてきたよ。  
おじいさんは  
いいました。  
ふたりめだから  
ももじろうで  
いいね。  
おばあさんは  
そくとうしました。



ももじろう は  
おかねもち の  
おばあさんと  
おじいさんと  
なに ふじゅうなく  
くらしました。  
そして、ごちそうを  
たらふく たべて  
すくすくと  
そだちました。



ももじろうには  
としの はなれた  
おにいさん が  
いました。  
あまり いえには  
いませんでした が  
おかね や ごちそう  
を もってきて  
くれる ので  
ももじろうは  
おにいさん が  
だいすき でした。



あるひ ももじろう は  
おにいさんに  
ききました。  
おにいさんは  
どうして おかねが  
たくさんあるの?  
おにいさんは  
わらいながら  
こたえました。  
けらいたち が おにの  
ように はたらいて  
いるからさ。

